

独身女性のための生命保険

「社会に出て、やっと落ち着いたし保険に加入しようかな」
という方の中で
「でも、宣伝している保険がありすぎてよくわからない」
ということ良くありませんか？

ここでは、有限会社フレッタがFP事務所として**お薦めの種類と加入のコツ**をちょこっとお伝えします。(文章の最後の注意事項は、飛ばさないでお読み下さい)

■ステップ1：目的を明確にしましょう。

「目的」を明確にすると・・・「必要な期間」と「必要な金額」が明確になる。
「必要な期間」と「必要な金額」が明確になると・・・「必要な種類の保険」が明確になる

独身女性には一般に多額の生命保険は必要ではないといわれています
(資産家や、一家の大黒柱や、事業の借入金のある方等は別です)

◇第一の目的：両親（遺族）に「葬儀代程度」を残す目的

葬儀だけなら市民葬儀などで「100万円台（もっと格安も？ある）」もあるのですが
ここでは、その他もろもろで300万～500万円のケースを考えましょう。

「必要な金額」＝300万円～500万円

とすると

「必要な期間」＝いつ必要になるかわからない＝いつ死んでも保険金が残るように

「必要な種類の保険」＝生命保険（終身）タイプで準備。

◇ポイント

- 1、定期保険だと、定期の期間が切れた翌日に運悪く死んだら0円。安くても今までの掛け金は意味を為さなくなりますか？
- 2、いつかは、「預貯金で両親（遺族）に残せる余裕資金ができたなら」解約することも考えられます、その時の解約戻り金もポイント！

◇第二の目的：病気・怪我の際の入院の保障

「必要な金額」＝おおむね入院日額 12000 円～14000 円台を目安。

(※{入院日額 12000 円～14000 円台}－{会社などの、傷病手当金・休業補償などの保障}＋「自営業など収入に直結する場合は収入の補填」－{自分の預貯金で入院費・手術費などに耐えられる部分}などの計算式も参考に)

「必要な期間」＝入院する可能性は何歳までもって生きる？＝一生。

「必要な種類の保険」＝日額 5000～15000 円の医療保険（終身）で準備。

◇ポイント

- 1、医療保険を解約しますか？・・・将来「これからの年齢は入院しないから医療保険を解約しよう」という状況は考えられますか？で、あれば解約していくら戻ってくるといふ貯蓄性は医療保険に必要なのでは？

■ステップ2：加入の仕方を考えよう

◇ 「宣伝しているから」あなたに合っているのでしょうか？

有名なのは「宣伝費をかけている」からという理由だけです。あなたに合っているとは限りません。

＝普段目に入らない商品も選択肢に入れてはいかがでしょうか？

◇ 「安かったから」あなたに合っているのでしょうか？

一番安いのが、無認可の共済商品だったら、それでも加入しますか？

そこには、ある程度の「破綻を回避したい」考えが出てきますね。

＝ある程度、財政的に安定している保険会社を絞り込みましょう。

◇ 「何となく加入した」保険があなたに合っているのでしょうか？

なんとなく加入して、「後から後悔」したり、「あせって追加の保障を検討」したり、大変ですよ。保険の事を「四六時中考える」のはおかしいですが

加入のときは、1年に1日か2日くらいは検討の時間を作ってはいかがでしょう？

納得・理解して入るのと、そうでないのとでは、全く違いますよ。

あとは・・・・・・・・

↓↓↓

「生命保険と資産運用の相談」や「保険の見直し相談」は
「有限会社フレッタ」まで

WEB : <http://fp.i-fretta.com/>

相談申込 : 電話 : 050-3723-8291 メール : entry@i-fretta.com

● 注意事項

- ・当資料は、あくまでも一般的な考えを基にお薦めの方法を記載したものです。
- ・ 全ての女性に当てはまるものではありません。
- ・ 宣伝している保険会社を誹謗する目的はございません。
- ・ 無認可共済を誹謗する目的はありません。
- ・ 「「生命保険」「医療保険」で準備するとしたら」という前提です。各家庭・各女性によって「貯金で準備する」「家族に助けてもらえる」など状況は千差万別です。
- ・ 葬式代は、各地域・宗教・考えによって異なります。
- ・ 文中にあるとおり、資産家は「相続・争族」対策の保険がいる場合もあります。
- ・ 入院日額 12000～14000 円は、厚生労働省などのデータを参考に平均値を記載していますが、病気や病院や治療方針により実際にかかる医療費負担は異なる場合があります。